

きのうこぞ
 マンサとりしか
 いつの間に
 稲葉そよぎて
 秋風の吹く
 古今和歌集

實相寺 花園會報

令和四年
 十月一日発行
 発行所
 臨濟宗妙心寺派
 陽明山 實相寺
 實相寺花園會
 〒761-0450
 高松市三谷町
 1811番地1
 TEL087-889-3838
 編集発行人
 山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第162号

お寺の掲示板

「ついきのう田植えをしたと思っていたが、いつの間にか稲は生長し、その葉をそよがせて秋の風が吹き渡っているのである」

『道歌教訓和歌辞典』

稲穂が実る昨今、季節としては少し遅い歌かなと思えますが、ようやく涼しくなつて秋風も感じられる良い時候となりました。

もう今年も残すところあと三ヶ月、本当に月日が経つのは早いものだなと実感致します。

茶室屋根の修理完了・その他

八月末から着工した茶室の屋根修理は一週間で終了し、その後のゲリラ豪雨でも雨漏りはありませんでした。土壁はそのままですがこれで一安心です。また以前から踏むとたわんで気になつていた本堂入り口の床ですが、茶室天井板の交換に宮大工さんが来られたので、この際、追加で修理して貰いました。これで来月の御親化授戒も安心



して迎えられます。

加えて、当初は一日に百人近い戒徒を予定していた授戒会ですが、コロナ対策で人数を半減した為、業者にカーペットを敷いてパイプ椅子を設置して貰うよりも、畳用の椅子をお寺が追加購入する方が会場設営費は安くなり、教区もお寺もメリットがあるので、会所補助金を十万円増額して貰い、アルミ椅子二十脚を購入しました。



「輪廻から解脱」するということ(二) さて繰り返しになりますが、仏教は「死んだら良い所へ生まれ変わりたい」というような教えではない。お釈迦様が説かれたのは「もう二度と生まれ変わらないうための教え」だということを先月号でお伝えしました。

ただ私も含め、輪廻転生を信じていない日本人にとっては、なかなかピンとこないと思いますが、先日、ふと「こういうことかな？」と思うところがあつたので管見ながらご紹介します。

私事ですが長男が結婚することになりました。お相手は一人娘なので先方は婿入りを希望され、本人も寺を嗣ぐつもりはないので承諾しました。併せて次男も今春大学院を終え就職しました。こちらにも寺を嗣ぐ気はありません。

は200万人いた訳ですから、今後は大学だけでなく、社会のあらゆる業種で統廃合が進んでいくのは避けられませんが、寺院もまた同様です。

そんな中、先日茶室の屋根を修理させて頂いた訳ですが、工事を見守る中、「跡継ぎもないし、やがて檀家さんもないくなる。そんなお寺に大金を掛けても無駄なんじゃないか？」という思いがふと湧きました。その時「ハッ」と気がついたのが、「だったら自分はどうなんだ？」ということでした。

どうせ人は皆、いつかは死ぬ存在です。継続できないから無駄なのだとしたら、人として生まれてくること自体無駄なのです。だからこそ誰もが誰かに託そうとします。子供や後輩に、家や仕事や自らの生きてきた意味を。で

そこでこの際、二人とも得度はしていましたが、僧籍を返上して還俗させました。跡継ぎを育てることが出来ず、皆様には大変申し訳ありませんが、親としては子供達の希望を尊重したいと思います。何卒御寛恕下さい。

一方、先日實相寺花園会128軒の皆様が世帯動向を集計してみました。後継者がいる世帯は87%、男性後継者がいる世帯は68%でしたが、男女問わず県内に後継者がいる世帯は38%です。それらを勘案しながら2040年の状況を予想してみたところ、現在の会員の32%が継続、27%が退会、41%が不明となりました。

今年上半期の出生者数は38万人でしたので、2040年の18歳人口は80万人以下になるでしょう。平成の初め頃もそれって、ある意味「輪廻転生」んじゃないかと感じました。子供が「自分は両親の生まれ変わりだ」と感じるのと、親が子供に「お前は俺の生まれ変わりだ」というのは全く違います。後者は親のエゴでしょう。

そう思うと「輪廻しない」ということは、他者への依存を捨てて、自分の人生は自ら生き切る、ということということでは無いかと感じたのでした。

「この秋は 雨か嵐かしらねども

今日のつとめに田草とるなり」という古歌もあります。SDGsが叫ばれる今だからこそ、たとえ将来が見通せないとしても、今、自分がやるべきことを精一杯務めていくという姿勢が大切なのではないかと思つたのです。それが「輪廻からの解脱」ではないかと。